

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク

設立3周年記念フォーラム

つながりを力に
がん当事者として、あるいは当事者の
垣根を越えて語ること

当事者のがん体験は切り離されたものではなく、日々の暮らしの中に位置づけられます。同様に、がん体験の語りも必ずしも切り離された形で存在するものではありません。今回のフォーラムでは、「病いの語り」に関する気鋭の研究者である田代志門先生をお迎えします。当事者の語りや、当事者とそうでない人が垣根を越えて語るの意味合いなどについて触れながら、語ること、語ろうとすることの難しさと、それでも語ることでつながることの大切さを話し合います。この機会にぜひご参加ください。

2024年2月10日（土）13:30～15:30

Zoomによるオンライン配信と都心会場のハイブリッド開催

第1部 基調講演：田代 志門さん

東北大学大学院文学研究科 准教授

「病いの語りが生み出す『つながり』とは」



第2部 座談会 <進行 高橋 都さん>

田代志門さん	病の語りの研究者の視点を中心に
久村和穂さん	ソーシャルワーカーの視点を中心に
堀内玲子さん	がん経験者やピアサポートの視点を中心に
村本高史さん	がん経験者や企業内の視点を中心に

お申込み

Zoomによるオンライン配信と都心会場のハイブリッド開催

参加費 一般（非会員）1,000円（がんサバネット会員無料）

◆ オンライン参加 2月4日までに公式サイトからお申込みください。
（先着順。定員に達し次第しめきります。）

◆ 会場参加 先着10名（会員限定）

※ 都心会場は申し込みいただいた方にご案内します。



お問い合わせ: contact@jcsurvivorship.net

登壇者ご紹介



田代 志門 (たしろ しもん)

東北大学大学院文学研究科 准教授

2007年東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。

国立がん研究センター社会と健康研究センター生命倫理研究部長を経て現職。

医療社会学、生命倫理学を専門に、長年にわたる日本のホスピス・緩和ケアのフィールドワークに基づく「病の語り」研究に携わっている。著書に「死にゆく過程を生きる—終末期がん患者の経験の社会学」、「臨床現場のもやもやを解きほぐす—緩和ケア×生命倫理×社会学」等。



久村 和穂 (ひさむら かずほ)

石川県がん安心生活サポートハウス ソーシャルワーカー

金沢医科大学医学部公衆衛生学非常勤講師

米国デンバー大学ソーシャルワーク大学院修士課程、東京医科歯科大学大学院博士課程卒業。ソーシャルワーク、サイコオンコロジーを専門領域としながら、がん経験者の抱える社会的苦痛とその支援に関する研究と実践に取り組んでいる。書籍「がんサバイバーシップ学」の共同監訳者。2019年～現在、厚生労働省がん対策推進協議会委員。



堀内 玲子 (ほりうち れいこ)

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク会員

山梨県がん患者サポートセンター・富士吉田市立病院内サロン/ピアサポーター

重複がんを経験後、国立がん研究センターの「患者・市民パネル」に参加。仕事の傍ら、地元の山梨県内で、ピアサポート活動、がんサロン活動に携わっている。



村本高史 (むらもと たかし)

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク副代表理事

サッポロビール株式会社人事部プランニング・ディレクター

本フォーラムの企画者、頸部食道がん経験者。

社内では2014年秋より専門職として治療と仕事の両立支援策を推進し、がん経験者の社内コミュニティ「Can Stars」を運営。厚生労働省「がん診療連携拠点病院等の指定検討会」構成員や「厚生科学審議会がん登録部会」臨時委員も務めている。



高橋 都 (たかはし みやこ)

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事

岩手医科大学医学部客員教授 / 東京慈恵会医科大学医学部客員教授

一般内科医として10年勤務後、東京大学大学院国際保健学を経て、複数大学の社会医学系教員として勤務。2013～20年に国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援部長として研究や情報発信に取り組む。この間、2017年に胆管がんの夫を自宅で看取る。定年退職後、NPOがんサバネットを設立。